



教職課程の全教科においてクラウドを活用 情報活用能力を育てる指導ができる教員を養成する

現行の小・中学校の学習指導要領では、学習の基盤となる情報活用能力の育成、ICT を活用した学習活動の充実が求められています。これを受けて大学の教職課程では 2022 年度より、ICT を活用した教育に関する科目の開設が義務付けられました。こうした科目は情報の専門教員が担当することが一般的ですが、信州大学教育学部では、ICT 関連の科目に限らず、国語等、全教科の授業においてクラウドを活用した授業が実施されています。Google Workspace for Education (以下、Google Workspace)の活用をいち早く取り入れ、全教科において情報活用能力を養成する同大学の取り組みを伺いました。

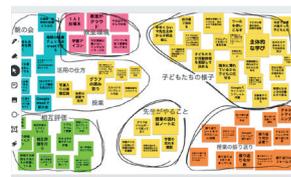


実践 1 Practice

学生自身がツールを体験することで、クラウドの利便性と活用意義を理解する

信州大学教育学部では、GIGA スクール構想の意義を理解する授業を全学生が受講します。同学部准教授の佐藤和紀氏は「言葉で伝えるだけでは学生には響きません。児童生徒と同じ環境でクラウドを活用しながら理解を深めることが大切です」と話します。そこで、学生は実際に Chromebook と Google Workspace が活用された

授業動画を視聴。Google Jamboard 上にかつての授業との違いなどを書き出し、Google スプレッドシートを使って情報を整理し、今後めざすべき授業の形を議論します。「Chromebook と Google Workspace を使って幅広い教育活動ができることに驚いた」「煩雑な作業を一元管理できる容易さを知った」などの声が集まりました。



Jamboard に気づきを貼り付けて協働している様子

実践 2 Practice

全教科でクラウドを活用。教科の特性に応じた実践的な情報活用能力を養成

ICT 関連科目に関わらず、Google Workspace を取り入れた学習指導は、国語教育コースでも行われています。共同編集に慣れる一歩目として、Google ドキュメントを使った小説の共同創作に取り組みます。テンプレートは教員があらかじめ用意。参加者数分の空欄をつくっておきます。学生は内容を理解しながら、協働して空欄に文章を

埋めていきます。クラウドツールに不慣れな学生もいますが、取り組み後は「他の人の執筆内容がリアルタイムでわかるので参考になる」「クラウド上に自動保存されるため、データが消えないのがよい」などの感想が寄せられ、学生自身が実際にクラウドを活用した授業を体験することで、実践的な ICT 活用指導力が身につくといえます。



信州大学 教育学部 准教授
佐藤 和紀 氏

まとめ Conclude

実践的なカリキュラムの構築・環境整備のベースとなる Google Workspace

教育学部長の村松浩幸氏は今後の教職課程について次のように話します。「令和の日本型学校教育として示された『個別最適な学び』と『協働的な学び』には、1 人 1 台端末とクラウドを用いた授業力の養成が欠かせません。大学教員も学生の主体的な学びに伴走し、成長を最大限に引き出すことが求められます。これを実現するには

実践的なカリキュラムの構築、環境整備が重要。本学の場合、その基盤となるのが Google Workspace です。なお、本学部では新必修 ICT 教育科目の授業事例集サイトを作成し、すぐに実践できる事例を数多く紹介しています。指導の流れや教材のテンプレートも掲載していますので、ぜひページ下部よりご参考になさってください」



信州大学 教育学部 学部長
村松 浩幸 氏

※2023 年 3 月取材



教員養成における新必修 ICT 教育科目の授業事例集

Google for Education を活用した授業事例と実践テンプレート集

実践事例はこちらをご覧ください

https://bit.ly/site_shinshu-uni

